

1. 単元 斎藤隆介の作品を読もう ～「モチモチの木」を中心にして～

2. 目標

- ・物語を楽しみながら読み、場面の様子を味わって読もうとする。 (関心・意欲・態度)
- ・登場人物の気持ちや様子などについて、叙述をもとに想像しながら読むことができる。 (読むこと)
- ・表現(比喩表現や擬人法など)のよさに気づくことができる。 (言語事項)

3. 指導にあたって

(1) 教材について

夜中にはモチモチの木がこわくて一人じゃ小便もできないほど臆病な豆太が、いっしょに暮らしている大好きなじさまを助けるために、冬の真夜中たった一人で遠く離れた医者様を呼びに行くということができた。そして、『勇気のある子』しか見ることのできない『モチモチの木の灯』を見ることができた。じさまは、豆太の中にある「自分は弱虫だ」と思い込んでいる気持ちを否定し、「お前は、勇気のある子どもだ」「やさしささえあれば、やらないきゃならないことは、やるもんだ」と力づけている。

児童は、誰もが夜はこわいという経験を持っている。そのため、豆太と自分とを重ね親近感を持って読み進めることができるだろう。また、挿絵や擬人法・比喩などの表現が登場人物の様子や気持ちを読み取るための手助けをしてくれる。そして、本当の勇気は人を思う気持ちから生まれ、家族に対する優しさから生まれるということに気づいてほしい。

(2) 児童の実態

4月から、課題を提示した後、必ず自分の考えをノートに書く時間を3～5分間とってきた。そのため、書くことには抵抗がなくなり、根拠も叙述から見つけ書こうとしている。しかし、叙述を見つけても、それをもとに自分の考えをもったり気持ちを考えたりできる子は少ない。

また、「きつつきの商売」では会話文から気持ちが読み取れることを学習し、「三年とうげ」では気持ちの変化が分かる言葉があることや「もしも・・・だったら」という考え方もあることに気づいている子はいたが、全体には広まっていない。それは、自分の考えを伝える力と友達の話の聴く力がまだついていないため、なかなかみんなの力となっていないのだと思う。

語彙を増やすために「国語辞典の使い方」を学習した後、いつでも使えられるようにし、調べ方も少しずつ上手になってきている。

課題について分かったことをまとめて書こうということで取り組んできた結果、内容的には差があるが板書を見ながら自分の力でまとめようとする気持ちが持てるようになり、接続語を上手に使ってまとめて書けるようになった子もいる。ふり返りには、まだ何を書けばいいかはっきりつかめていない子もいるが、学び方や友達のがんばりについて書けるようになってきた。

(3) 「自ら考え、学び合う子」をめざして

重点 活用力をつけることを意識した授業づくり

豆太の気持ちの変化やじさまの気持ちを行動や会話を比べながら読むことや話者の思いと登場人物の言動を読み分けることが、物語を読む力につながっていくと考える。

- ・前時の豆太と比べられるように、学習の足跡を掲示する。
- ・課題で入り、途中で読み深めの発問をして深めていきたい。
- ・情景を想像しやすいように、挿絵を提示する。
- ・会話や行動・様子から読み取れるように音読を多く取り入れたり、時には、動作化を取り入れたりする。
- ・気持ちの変化や比べていることが分かるような板書の工夫をする。
- ・まとめとふり返りを書くことで、学習した内容と学び方が自分の力となるようにする。

(4) 指導計画 (総時数 14 時間)

次	ねらい	主な学習活動	主な支援〇と評価規準口 (方法)
<p>第一次</p> <p>見通しをもつ</p> <p>3</p>	<p>・学習の見通しを持つことができる。</p>	<p><感想を出し合い、学習の見通しを持つ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・範読を聞く。 ・一人学習をする。 ・感想を出し合い、学習の見通しを持つ。 <div data-bbox="496 499 975 555" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>豆太のことを考えていこう。</p> </div>	<p>○初発の感想を出し合い、板書に場面ごとに位置づけ、大まかな筋をとらえ、見通しを持てるようにする。</p> <p>関学習の見通しを持ち、これからの学習に意欲を持っている。(発言・ノート)</p>
<p>第二次</p> <p>場面ごとに読み取る</p> <p>8</p>	<p>・場面ごとに叙述をもとに想像しながら読み、登場人物について考える。</p>	<p><豆太は、おく病か></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜中に一人でせっちんに行けないからおく病。 ・じさまを起こしているから、おく病。 ・せっちんは、表にあるからこわいのは、あたりまえ。 ・表には、モチモチの木がつつ立っていて、お化けみたいだから、五歳の豆太には、こわいよ。 ・りょうし小屋に、たった二人でさびしい所に住んでいて、こわいから、おく病じゃない。 <div data-bbox="512 1059 1091 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>豆太がおく病と思っているのは、話者で、自分だったら、りょうし小屋にじさまと二人っきりで住んでいるし、表にはモチモチの木がつつ立っているからこわがる気持ちも分かる。</p> </div> <p><じさまは、豆太をどう思っているか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・豆太が小さい声で言ってもすぐ起きるから、じさまは、豆太のことをかわいがっている。 ・いっしょに寝ているから、かわいいと思っている。 ・ふとんが1枚しかないから、貧乏でかわいそうと思っている。 ・お父もお母もいない。たった二人で暮らしている豆太のことが、かわいそうで、かわいいと思っている。 <div data-bbox="512 1872 1066 2040" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>じさまは、豆太のことをとてもかわいそうで、かわいく思っていて、寝ていても、すぐ起きてくれる。</p> </div>	<p>○豆太がせっちんへいけない理由を考えることで場所やモチモチの木の様子を読み取る。</p> <p>言モチモチの木の様子から、擬人化のよさに気づいている。(発言)</p> <p>○『おく病』と思っているのは、誰か」と問い返すことで、話者の思いであることに気づくようにする。</p> <p>○「それなのに」という言葉から、じさま・おとう・豆太を比べていることにも気づくようにする。</p> <p>読豆太の様子を叙述から読み取っている。(発言・ノート)</p> <p>○すぐ目をさましてくれるのは、なぜかを考えることで、じさまの豆太をかわいがっている気持ちを読み取るようにする。</p> <p>読じさまの豆太への気持ちを叙述から読み取っている。(発言・ノート)</p>

<p>・場面ごとに叙述をもとに想像しながら読み、登場人物について考える。</p>	<p>＜屋間のモチモチの木のことを豆太はどう思っているか＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こわくない。 ・ピカピカ光った実をいっぱい落としてくれる木。 ・おもちができる、おいしい木。 ・木の下に立って、片足で足踏みして、いばれる。 ・「やい」とか「実い落とせえ」とか、えらそうに言える。 ・でも、夜はこわい木。「お化けえ」っておどす。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>夜はとってもこわい木だけど、おいしい実をつけてくれる木で、昼間は、こわくない木。</p> </div>	<p>○昼と夜の豆太の違いを比べられるように、板書を工夫する。</p> <p>読豆太の動作や言葉から、モチモチの木に対する、昼と夜の豆太の気持ちの違いを読み取っている。(発言・ノート)</p>
	<p>＜じさまがすすめるのに、どうして豆太はあきらめたか＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいだから見たいけど、こわいから。 ・自分で勇気がないと思っているから。 ・じさまも、お父も見たんなら、自分も見たいけど、冬の真夜中だから。 ・山の神様のお祭りだから見たいけど、たった一人で見に出るなんて無理だ。 ・夜と考えただけでも、ぶるぶる震えてしまうほど、こわいから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分も見たいと思ったけど、冬の真夜中に、たった一人で見に出るなんて無理だと思い、初めからあきらめた。</p> </div>	<p>○「昼間だったら・・・」から、見たい気持ちもあるが、夜と考えるとあきらめている豆太の心の中を比べられるように板書する。</p> <p>読叙述から、見たいけど見られないとあきらめている豆太の気持ちを読み取っている。(発言・ノート)</p>
	<p>＜おく病豆太が、すごい豆太にかわったのはどうしてか＞ (本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜、じさまが、くまみたいに体を丸めてうなっていたから。 ・じさまが、歯を食いしばって、すごくなつて苦しそうだから、助けようと思った。 ・助けたいから「医者様を呼びに行かなくちゃ」って言っている。 ・大好きなじさまが、死んじまうほうがこわかったから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>大好きなじさまのために、医者様を呼びに行こうと一人で決め、一人で真夜中に、寒くても、痛くても、こわくても半道も走った。豆太は、臆病じゃない。やさしい。</p> </div>	<p>○勇気のある豆太に変わったことを押さえた上で、どうしてかわったかを発問することで、豆太がじさまを大切に思う気持ちを読めるようにする。</p> <p>読じさまを思う豆太の必死の思いを行動や情景描写から読み取っている。(発言・ノート)</p>

	<p>・場面ごとに叙述をもとに想像しながら読み、登場人物について考える。</p>	<p><豆太は、モチモチの木の灯を見られたか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねんねんこの中から、モチモチの木に灯がともるのを見られた。 ・見られたけど、じさまのことのほうが大事なので、少ししか見ていない。 ・不思議なものを見ても、すぐ、医者様を手伝って、まきをくべたり、湯を沸かしたりしていた。 <p>じさまの病気が治ってほしいと思う気持ちから、不思議なものより手伝うことを選んだので、豆太は、少しだけ見る事ができた。</p>	<p>○不思議なものを読み取った後で、豆太のしていることからじさまのためにしていることと、今までとは違う豆太の様子を読み取る。</p> <p>読 叙述から、じさまを思うやさしい気持ちを読み取っている。(発言・ノート)</p>
		<p><じさまは、また、しょんべんに起こした豆太のこのどう思っているか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・弱虫でも、やさしさがあればいいと思っている。 ・豆太には、勇気があると思っている。 ・豆太は、やらなきゃならない時には、きっとやるものだと思っている。 <p>じさまは、豆太のことをモチモチの木の灯を見ることができた勇気のある子どもで、やさしさがあればいいと思っている。</p>	<p>○じさまの言葉の「やらなきゃならない時」は、どんな時かを考えることから、豆太に対する気持ちを読み取れるようにする。</p> <p>読 じさまの言葉から、じさまの気持ちを読み取っている。(発言・ノート)</p>
<p>第三次 作品にふれる 3</p>	<p>・斉藤隆介の作品を読む。</p>	<p><登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読み、感想を出し合おう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・八郎・・・みんなのために、海の荒れるのをくいとめた。 ・猫山・・・みんなのために戦う。 ・半日村・・・みんなの幸せのために、がんばる。 <p>どの主人公もやさしい。自分のことより、家族やみんなのことを考えている。</p>	<p>○「八郎」「三コ」「半日村」「ひばりの矢」「火の鳥」「猫山」「かみなりむすめ」などを紹介する。</p> <p>関 楽しみながら、読んでいる。(発言)</p>

5. 本時の学習（第二次中6時）

(1) **ねらい** じさまを思う豆太の必死の思いを行動や様子・会話文・情景描写から読み取ることができる。
(読むこと)

(2) **本時の活用力** 行動や様子・会話文・情景描写から気持ちを考える力。

(3) **展開**

段階	学習活動	時	教師の働きかけと予想される児童の反応	支援○と評価規準□(方法)
つかむ	1. 前時を想起し、本時の課題をつかむ。	2	○どんな豆太だったかな。 ・おく病豆太。 ・見たいのにあきらめてねてしまった。	○前時の学習の足跡を掲示に残しておき、本時へつなげられるようにする。 ○あきらめて寝てしまった豆太と比べられるように板書し、豆太の変化がわかるようにする。 ○豆太のなきなき走っている挿絵を用意し、豆太やまわりの様子を考えられるようにする。
		8	○豆太は、おく病のままか。 ・すごい豆太になった。 ・表戸をふっとばして外に出られたからすごい。 ・ねまきのまんま。はだしで。半道も走ったからすごい。 ・月も出て真夜中なのにすごい。 ・霜がかみついて、血が出て、痛いのに走ってすごい。 ・泣き泣き、ふもとの医者様まで走ったからすごい。 <おく病豆太が、すごい豆太に変わったのはどうしてか>	
考えを持つ 高め合う	2. 自分の考えを持つ。 3. 課題についての考えを出し合い話し合う。	5	・指名読みをする。(68 ページ8行目~70 ページ13行目) ・各自ノートに自分の考えを書く。	○勇気のある豆太に変わったことを押さえ、その理由を問うことで豆太のじさまを大事に思う気持ちを考える。 ○擬人法と挿絵から、じさまの苦しんでいる様子を想像できるようにする。
		25	○考えを話し合おう。 ・じさまが、くまみたいに <u>体を丸めてうな</u> っていて、とても苦しそうだったから助けたかった。 ・じさまが、たたみに <u>転が</u> て <u>歯を食いしばり</u> 、 <u>すごくうな</u> っていたから、とても痛そうで、医者様をよぼうと思った。 ・じさまを早く助けたいと思ったから、霜が <u>足にかみついて</u> いても、足から <u>血が出て</u> も急いで走った。 ・大好きなじさまの死に <u>まうほう</u> が、夜の道を走るよりも <u>もつとこ</u> わかったから。 ・じさまが、いないと自分は生きられないと思ったから。	
まとめる	4. まとめとふり返りを書く。	5	○わかったことを書こう。 ・豆太は、じさまを助けることだけを考えて、真夜中の道をひとりで一生懸命走った。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">大好きなじさまを助けるために、医者様を呼びに行こうと一人で決め、一人で真夜中に寒くても、痛くても、こわくても半道も走った。豆太は、すごい豆太に変わった。</div>	<p>○擬人法と挿絵から、じさまの苦しんでいる様子を想像できるようにする。</p> <p>読じさまを思う豆太の必死の思いを行動や様子・会話文・情景描写から読み取っている。(発言・ノート)</p> <p>●「もつと」に着目させ、一番こわいものをとらえられるようにする。</p> <p>○深まりのためのキーワードや学習アイテムを意識させる。</p>

(●到達できなかった子への支援)